

芦原温泉駅周辺整備基本計画書 (改定案)

平成 18 年 3 月 初版
平成 29 年 3 月 改定

福井県 あわら市

目 次

第1章 計画の目的、区域および内容	1
1-1 計画の背景と目的	1
1-2 計画区域の設定	3
1-3 計画の内容と検討体制	4
第2章 上位・関連計画の整理	6
第3章 地区の現況特性	12
3-1 嶺北北部地域の現況特性	12
3-2 駅周辺地区の現況特性	14
3-3 地区の現況特性のまとめ	18
第4章 地区の整備課題	19
第5章 駅周辺整備構想	22
5-1 まちづくりの方向性	22
5-2 まちづくりのテーマ	23
5-3 地域の基本的構成	24
5-4 西口及び東口の役割分担と交通施設整備の方向性	26
5-5 駅周辺の基本構想	28
第6章 駅周辺整備基本計画	29
6-1 駅舎及び東西自由通路	29
※H29.2.27時点、JR西日本と協議中	
6-2 アクセス道路（西口、東口）	35
6-3 駅前広場（西口、東口）	40
6-4 パーク&ライド駐車場及び自転車駐輪場	58
6-5 都市機能導入の提案	61
6-6 都市景観形成の提案	64
第7章 整備スケジュールと整備手法の検討	72
7-1 整備スケジュール	72
7-2 整備手法の検討と概算事業費の算定	74
第8章 実現に向けた課題整理	76

第1章 計画の目的、区域および内容

1-1 計画の背景と目的

1. 新幹線計画の概要と整備効果

(1) 新幹線計画の概要と経過

① 北陸新幹線の概要

- ・北陸新幹線は、東京を起点として高崎、長野を通り、上越、糸魚川、富山、金沢、福井等の日本海沿岸の主要都市を經由して新大阪に至る延長約700kmの路線である。
- ・平成27年3月14日には金沢駅まで開業し、金沢―敦賀間については、平成37年度の完成・開業を3年前倒しし、平成34年度の完成・開業を目指すことが決定された。

② 北陸新幹線建設の経緯

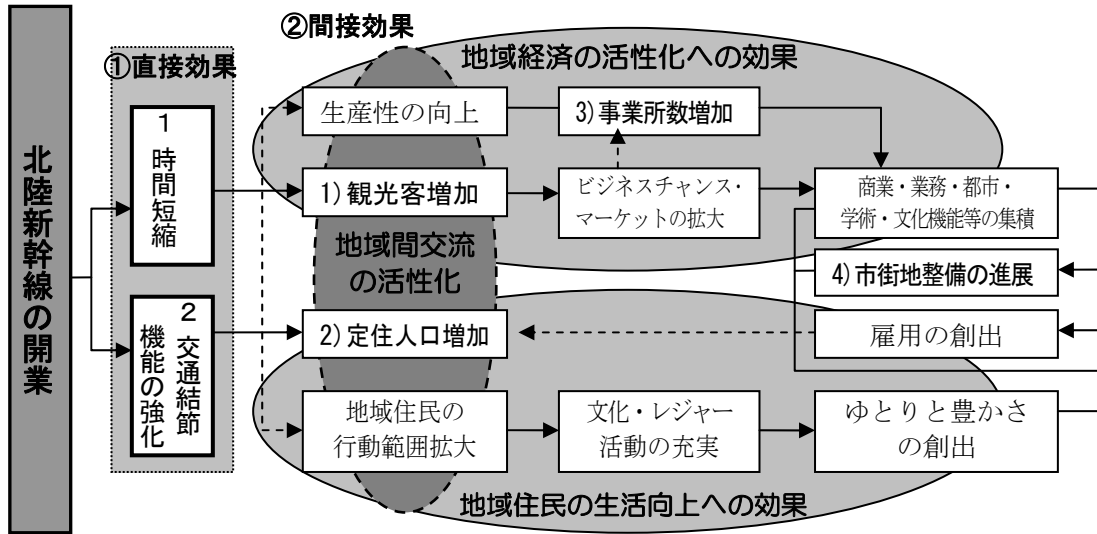
平成11年12月	新整備スキームの与党案とりまとめ
平成12年12月	政府与党申合せ
平成13年4月	長野・富山間フル化工事認可
平成14年1月	南越・敦賀間の環境影響評価完了
平成16年6月	新整備スキームの与党案取りまとめ、政府に申入れ
平成16年8月	政府与党中間申合せ
平成16年12月	政府与党申合せ
平成17年4月	富山・白山総合車両基地間フル化工事認可、福井駅部工事認可
平成17年6月	富山・白山総合車両基地間フル化工事着工、福井駅部工事着工
平成17年12月	南越・敦賀間の工事実施計画認可申請
平成21年2月	福井駅部工事完成
平成24年6月	金沢・敦賀間（フル規格）認可
平成27年1月	政府与党申合せ 金沢・敦賀間の開業時期について平成34年度末を目指す
平成27年3月	長野・金沢間開業
平成28年12月	与党PTが小浜・京都ルートを正式決定



(2) 北陸新幹線の整備効果

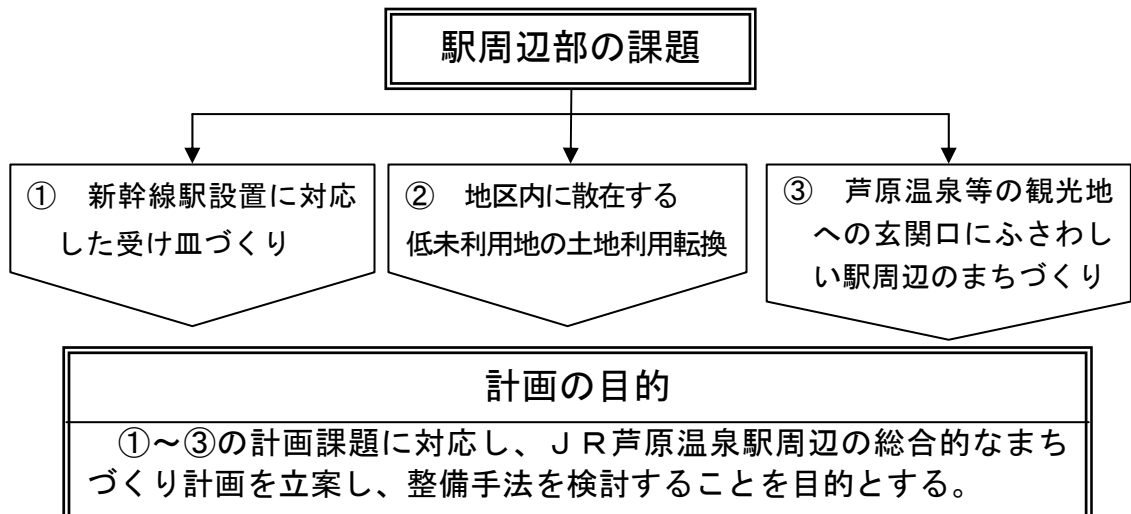
- 北陸新幹線の開業は、時間短縮及び交通結節機能の強化の大きく 2 つの直接効果があり、その効果により、下図に示すような様々な間接的波及効果が想定される。

■北陸新幹線のインパクトによる地域への効果



2. 計画の目的

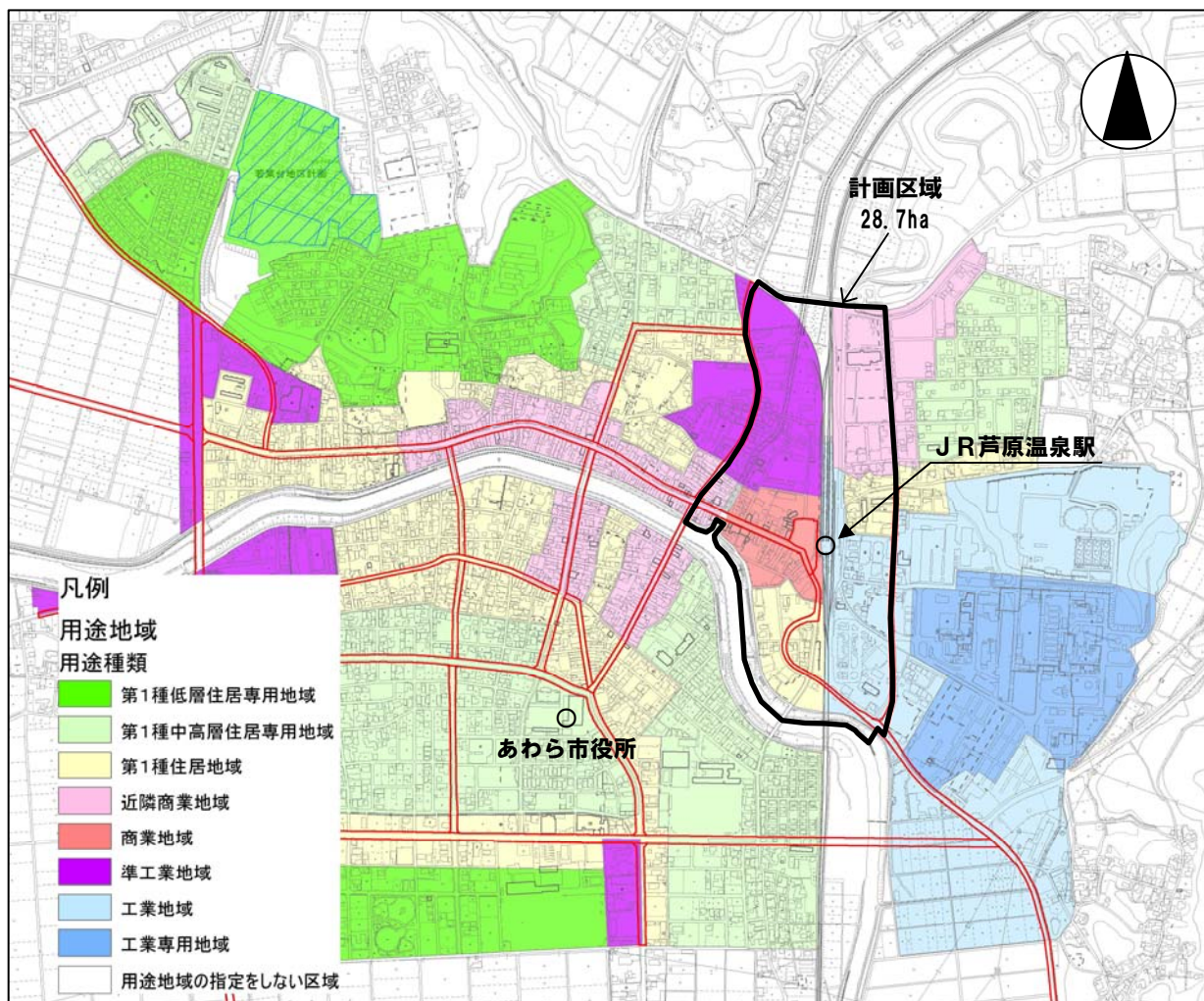
- 芦原温泉駅周辺地区は J R 芦原温泉駅を中心とした商工業地域で、駅舎や駅前広場(西口)が整備され、県道が通過しているものの、北陸自動車道金津 IC や国道 8 号等の広域幹線道路とのアクセス条件が悪く、交通ターミナル機能の充実が求められている。
- また、近年、大型事業所の工場跡地に交流施設や学校給食センター等が建設され、土地の有効活用が図られている一方、その他の低利用・未利用地の土地利用転換が課題として残っている。
- さらに、駅前商店街の空洞化も進んでおり、これらの低利用・未利用地などを活用した街並みの再整備が緊急の課題となっている。
- そこで、J R 芦原温泉駅周辺整備にかかる各種の上位・関連計画を整理するとともに、北陸新幹線芦原温泉駅の設置を踏まえ、福井県を代表する観光地と嶺北北部地域の玄関口にふさわしい駅周辺のまちづくり計画を策定することを目的とする。



1-2 計画区域の設定

- ・ 駅周辺部において、一体的整備の必要性や事業実施の実現性等を考慮し、計画区域はJR芦原温泉駅を中心とする西口市街地 16.9ha、東口市街地 11.8ha、合計 28.7ha とする。
- ・ 当区域の大部分は震災復旧土地区画整理事業(昭和 23~28 年)及び金津東部土地区画整理事業の区域内であり、一定の都市基盤整備がなされている。
- ・ また、駅西口を中心に工場跡地の土地利用が進んでおり、駅東口では戸建て住宅と大規模工場及び低未利用地(区画整理済み地区内)が多く分布している。

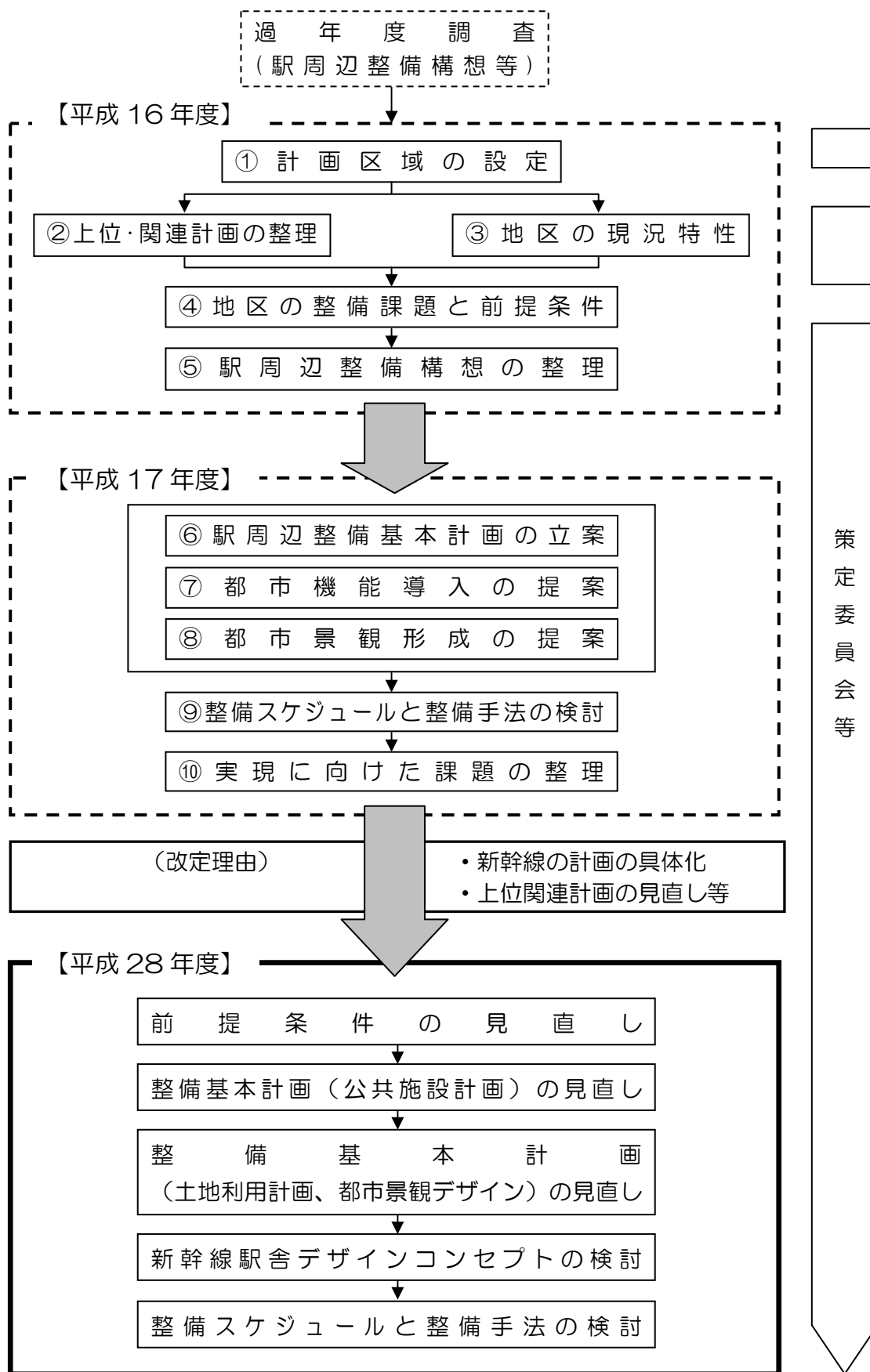
計画区域境	
・ 東側	市道旭・山室線((都)山室伊井線)
・ 西側	県道水口牛ノ谷線((都)金津細呂木線)
・ 南側	一級河川竹田川
・ 北側	市道滝・高塚線(山室幹線農道)



■ 金津市街地と計画区域

1-3 計画の内容と検討体制

1. 計画の内容（検討フロー）



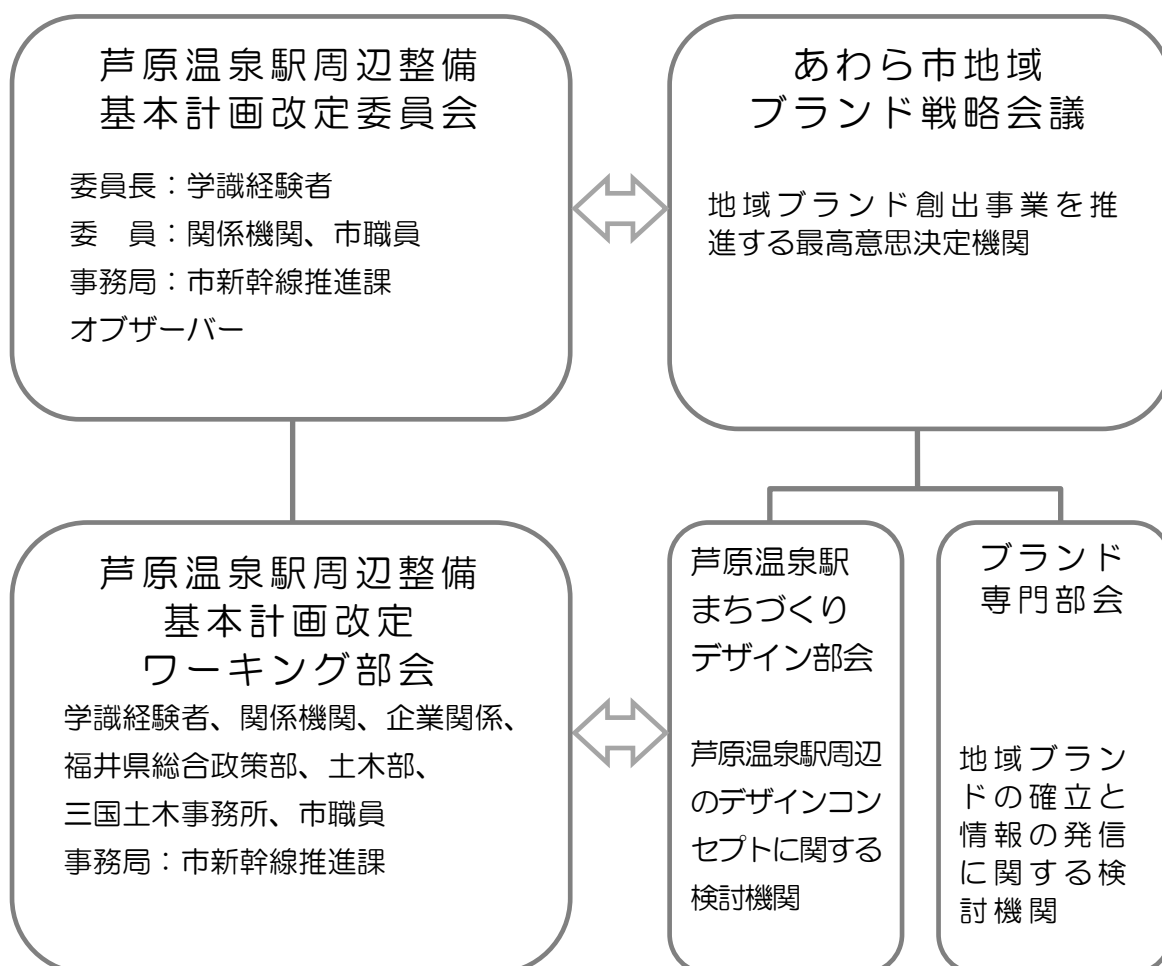
2. 検討体制

- ・整備基本計画の改定にあたっては、学識経験者、関係行政機関、商業者、自治会代表者や市民代表からなる委員会の他、ワーキング部会を設置し意見を集約する。

組織名	構成
改定委員会	・学識経験者、関係行政機関、商業者、自治会代表者や市民代表からなる計画改定委員会
ワーキング部会	・策定委員会の下部組織であり、学識経験者、関係行政機関からなる作業部会

- ・なお、並行して進められている「あわら市地域ブランド創出事業」との調整を図る。

【検討体制図】



第2章 上位・関連計画の整理

上位・関連計画として、下記の5つの計画から、本地区の位置づけを整理する。

- ①第2次あわら市総合振興計画
- ②あわら市都市計画マスタープラン（改定中）
- ③あわら市立地適正化計画（策定中）
- ④まち・ひと・しごと創生総合戦略
- ⑤あわら市景観計画（JR芦原温泉駅周辺地区景観形成整備計画）



地区の位置づけ

- ・ JR芦原温泉駅周辺地区は、広域圏における拠点として位置づけられ、北陸新幹線等の整備を見据え、交通結節点機能の強化と都市機能の導入を図るべき地区である。
- ・ また、あわら市の中心市街地を形成していることから、住民・市民生活を支える生活支援機能等の整備・更新により、定住基盤を強化すべき地区として位置づけられる。

① 第2次あわら市総合振興計画（平成28年3月策定）

都市の基本理念：暮らしやすく 幸せを実感できるまち

【幸せを実現するための6つのプラン】

Plan-A 新幹線を迎える

Plan-B まちを輝かせる

Plan-C 人をはぐくむ

Plan-D 安らぎを守る

Plan-E 力をみなぎらせる

Plan-F 夢をつなぐ

【Plan-A 新幹線を迎える】

◎福井県の北の玄関口の整備

北陸新幹線で福井県を訪れる人たちを最初に迎える駅が芦原温泉駅です。福井県の北の玄関口にふさわしい新幹線駅舎となるよう働きかけるとともに、周辺においても民間資本の投入を促進するような環境の整備に努めます。

また、駅西口および東口について、あわら市のエントランスゾーンにふさわしく市民と来訪者が集い、ともに憩えるエリアとして整備します。

【Plan-E 力をみなぎらせる】

◎商業の振興と市街地の活性化

活発な商業活動は、まちに活気とにぎわいをもたらします。芦原温泉駅周辺と芦原温泉街の2つの市街地における商業活動や事業活動を支援し、中心市街地の活性化を図ります。

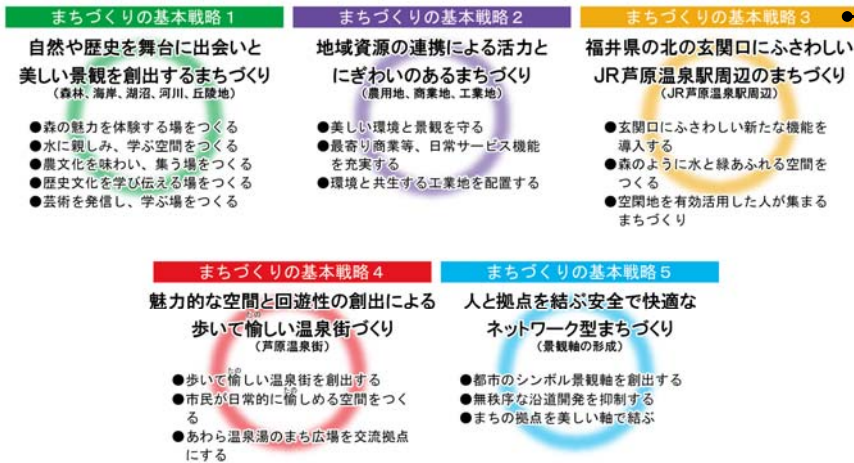
② あわら市都市計画マスタープラン（改定中）

【将来の都市構造図】



【まちづくりの基本戦略】

J R 芦原温泉駅周辺は、福井県の北の玄関口として、特色ある美しい景観形成と新たな機能の導入により、活力と魅力あふれる空間を創出します。



《まちづくりの基本戦略 3》

- 玄関口にふさわしい新たな機能を導入する
 - ・ 新幹線駅の開設にあわせ、福井県の北の玄関口として、交通結節や情報発信機能を強化
 - ・ 観光客が旅の余韻を感じ、かつ市民にとっても日常の疲れがいやされる空間づくり
- 水と緑あふれる空間をつくる
 - ・ 駅前広場を中心に、駅舎、シンボル道路が一带となった緑あふれる美しい景観づくりの推進
 - ・ 街路樹や空き地の緑化、竹田川や宮谷川を生かした水と緑あふれる空間の創出
- 空閑地を活かした人が集まるまちづくり
 - ・ 大規模空閑地は、駅周辺に求められる都市機能の導入に活用
 - ・ 住宅に近接した空閑地は、商業機能や日常生活サービス機能などを導入

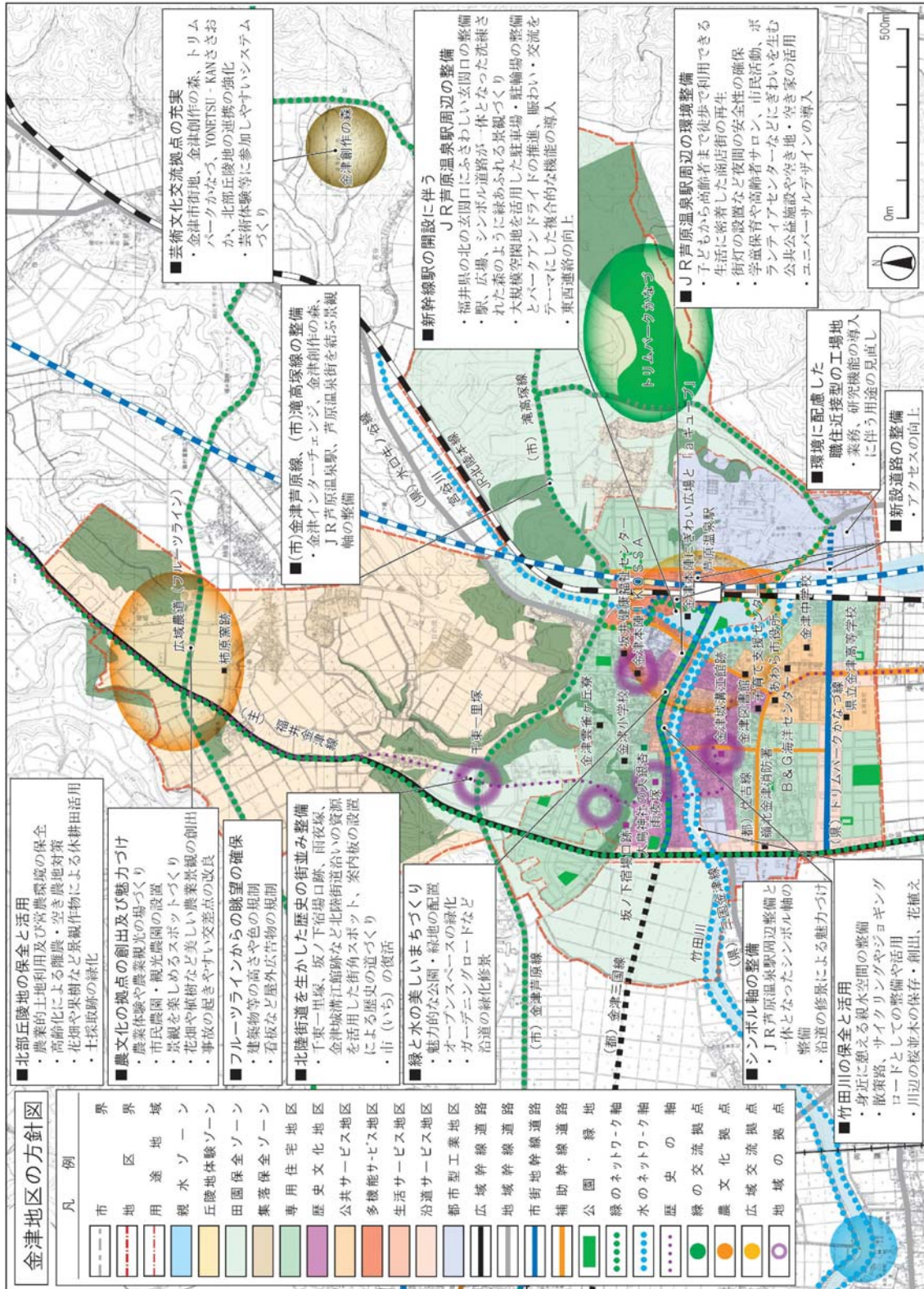
あわら市都市計画マスタープラン 地域別構想

【金津地区のまちづくりの方針】

地域づくりの目標

『蘇^{よみが}える街道や市のにぎわい^{いち} 水と緑あふれる生活が魅力のまち』

北陸街道や宿場町、鉄を運ぶ湊、市^{いち}があり、人々が往来した歴史があります。新幹線駅の開設に向け、森のように緑豊かな駅周辺の景観を育み、高齢化社会に備え、歩いて日常を過ごせる店舗や散策路を創出し、かつての往来が蘇^{よみが}えるまちを目指します。



③ あわらし市立地適正化計画（策定中）

【まちづくりの目標】

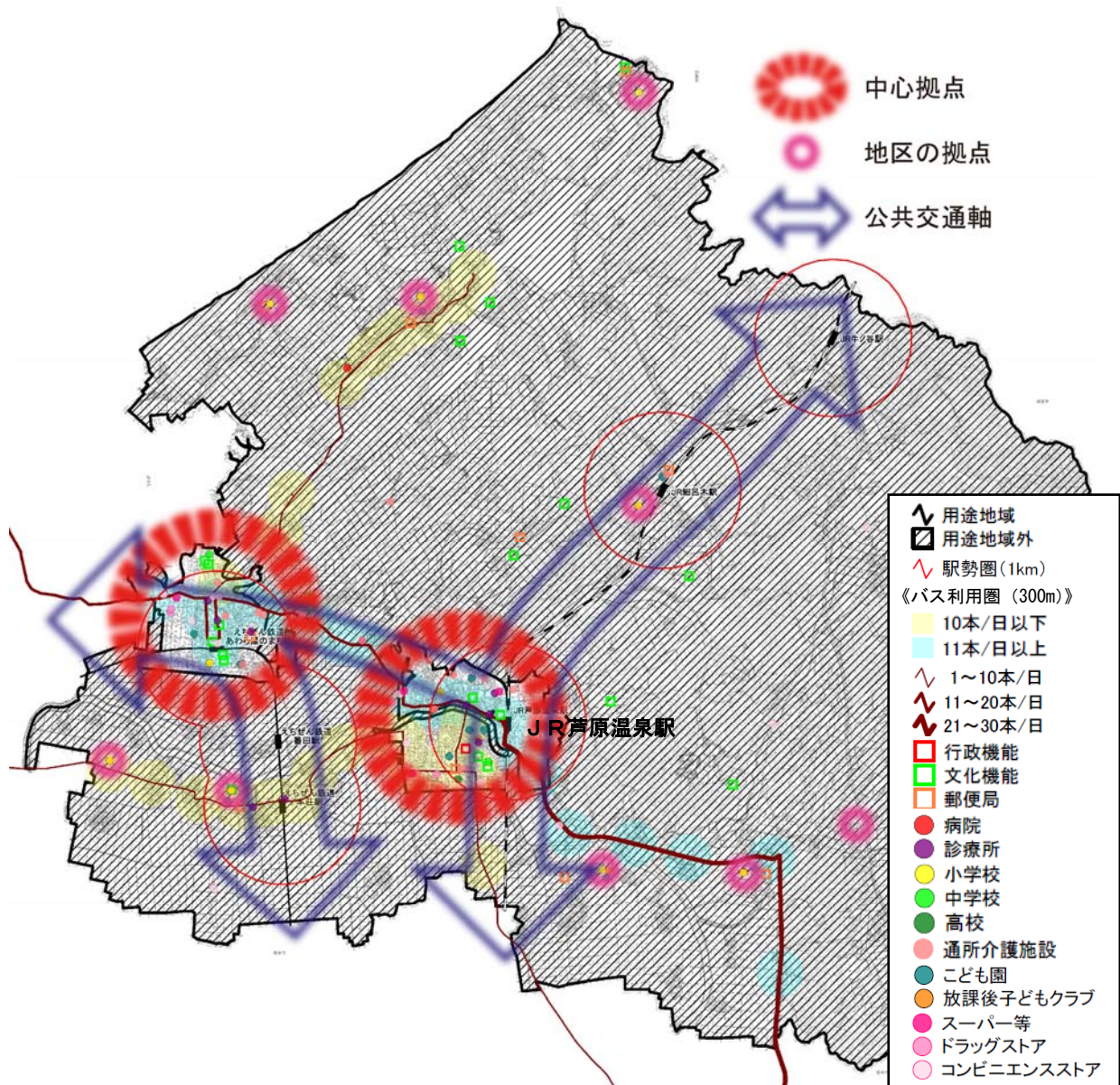
目標1 暮らしやすい持続可能なまちづくり

豊かな自然を背景に、居住機能と生活を支える都市サービス機能（公共施設や生活利便施設）が集積する、暮らしやすいコンパクトなまちづくりを進めます。

目標2 活力と魅力を生み出す多様な拠点づくり

2つの拠点でのさらなる魅力創出を図るとともに、周辺の自然環境、歴史・文化等の固有の環境を活かした多様な拠点づくりを進めます。

また、これらを有機的に結びつける公共交通を基軸としたネットワークづくりを進め、連携による相乗効果を創出していきます。



■目指すべき都市の骨格構造

④ まち・ひと・しごと創生総合戦略 [第2版] (平成28年3月策定)

【基本目標】

- ① あわら市における安定した雇用を創出する
- ② あわら市への新しいひとの流れをつくる
- ③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ④ 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

基本目標① あわら市における安定した雇用を創出する

(基本的方向)

③企業誘致の推進

本市産業の発展を図っていくためには、市外企業の誘致だけではなく、市内企業の増設も含め、幅広く捉えて、企業立地に戦略的に取り組む必要があります。J R 芦原温泉駅前へ積極的に企業誘致を推し進め、地域産業の活性化と雇用機会の拡大を図ります。

基本目標② あわら市への新しいひとの流れをつくる

(基本的方向)

①魅力的な観光地づくりと観光の振興

あわら温泉は福井県随一の温泉観光地であるとともに、北陸観光の宿泊拠点にもなっています。これまで多かった関西、中京方面からの観光客に加え、新幹線や舞鶴若狭自動車道などでアクセスの向上する関東、甲信越、中国地方など全国から訪れる観光客にとって魅力的な観光地づくりを目指します。また、年間を通して観光客と事業者をつなぐワンストップ型の拠点を整備し、本市を訪れる人々のニーズに応じた体験型観光の提供を行うなど、地域ぐるみのおもてなしを実践します。

②ターゲットを明確にした効果的な観光情報の発信

福井県と首都圏、関東甲信越を1本の線路で結ぶ北陸新幹線が、当初の予定を3年早め平成34年度に開業します。平成27年3月に先行開業した長野一金沢間では、新幹線を利用して富山県や石川県に多くの来訪者が訪れ、その高い経済効果が認められています。今後は、あわらブランドを確立し他地域にない魅力の発信や、北陸新幹線沿線地域に向けた観光PRをより一層強化するとともに、平成26年度に製作した観光プロモーションビデオやフェイスブックなどのSNSを活用し、効果的な観光誘客を図ります。

基本目標④ 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

(基本的方向)

③地域ブランドの確立による地域経済好循環の実現

移住定住や観光誘客などの地方創生施策を推し進める上で、その地域の認知度や魅力度は不可欠な要素といえます。これまで本市に確たる地域ブランドがない現状を課題と捉え、行政が主観的に定める地域ブランドではなく、地域を支える人、企業が共感できる地域ブランドをともに作り上げ、それを生かした人の呼び込み・定着や観光客の誘致、また新たな企業の誘致や新商品・特産品開発など、地域全体の活性化につなげる土台づくりを行います。

⑤ あわら市景観計画（平成24年10月策定）

【あわら市景観計画区域】

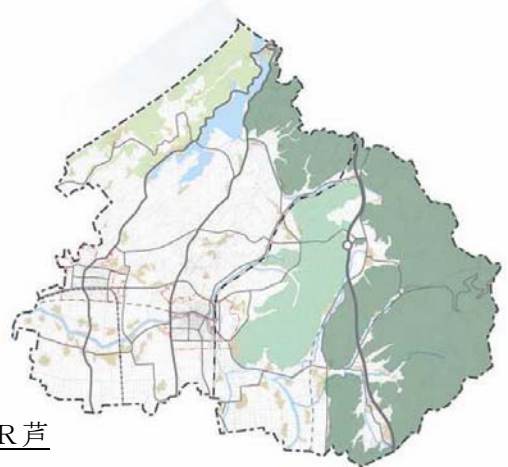
あわら市景観計画区域をあわら市全域とします。

《景観づくりの基本理念》

『次世代へ伝える春夏秋冬の風物詩が物語る景観づくり』

《景観づくりの基本方針》

- 基本方針① 多彩な自然風景を守り、育み、生かす
- 基本方針② 歴史的な景観を守り、伝え、新たな文化を育む
- 基本方針③ まちの個性を創造する景観づくり
- 基本方針④ 住む人々と生活する風景で美しく愛着のあるまちをつくる



また、景観形成重点地区に「あわら温泉地区」、「JR芦原温泉駅周辺地区」が指定されています。

《JR芦原温泉駅周辺地区の景観形成の目標と方針（景観形成整備計画より抜粋）》

●景観まちづくりの目標
水と緑と歴史がつながる風景づくり

●景観形成の方針	
福井県の北の玄関口	JR 芦原温泉駅周辺においては、緑豊かな景観をめざし、商店の建築物や看板については、形態意匠・色彩や緑化に配慮した福井県の玄関口にふさわしい景観を形成します。
緑豊かなにぎわい風景拠点の創出	かつて金津のまちの中に点在した緑地をモチーフにした緑豊かな空間を JR 芦原温泉駅前のにぎわい交流広場に再現し、まちの回遊性を生み出す拠点としてモデルとなる景観を形成します。
水と緑と歴史による回遊性の創出	JR 芦原温泉駅前や竹田川・宮谷川、寺院や神社などの歴史資源や眺望ポイントを辿る回遊軸を設定し、建築物の色彩や意匠の統一化、案内板・サインなど宿場町らしいデザインの創出、金津らしい夜の景観の演出などを図り、水と緑と歴史資源を回遊できる景観を形成します。
宿場町の趣きのある街並み形成	宿場町として歴史と暮らしが融合した趣きのある街並みを創出するため、木材や瓦を活かした金津らしい建築物の色彩や意匠の規制や緑と調和した景観を形成します。



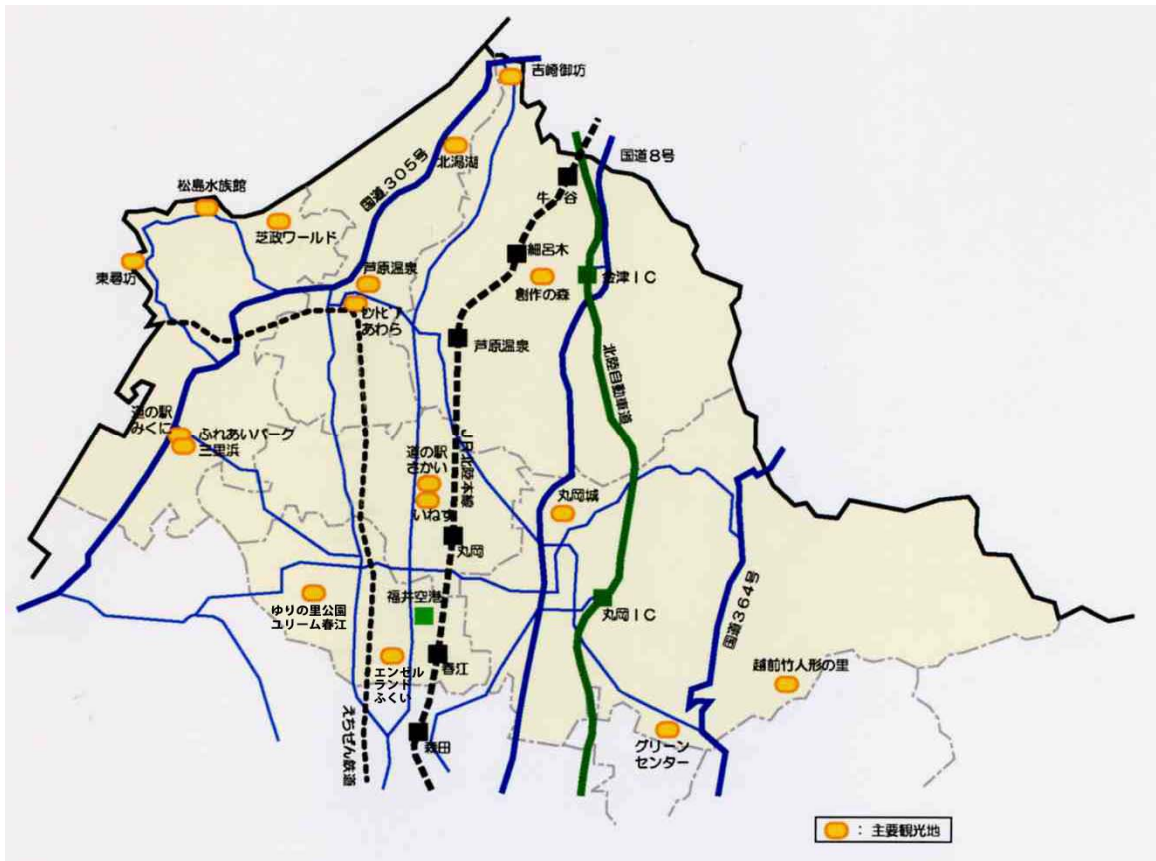
- 景観形成重点地区
- 統一感のある商業景観
- 歴史文化の趣きのある道路景観
- 宿場町の趣きのある街並み景観
- 花と緑が美しい道路景観
- 水と緑と歴史の回遊軸
- 保全すべき眺望

第3章 地区の現況特性

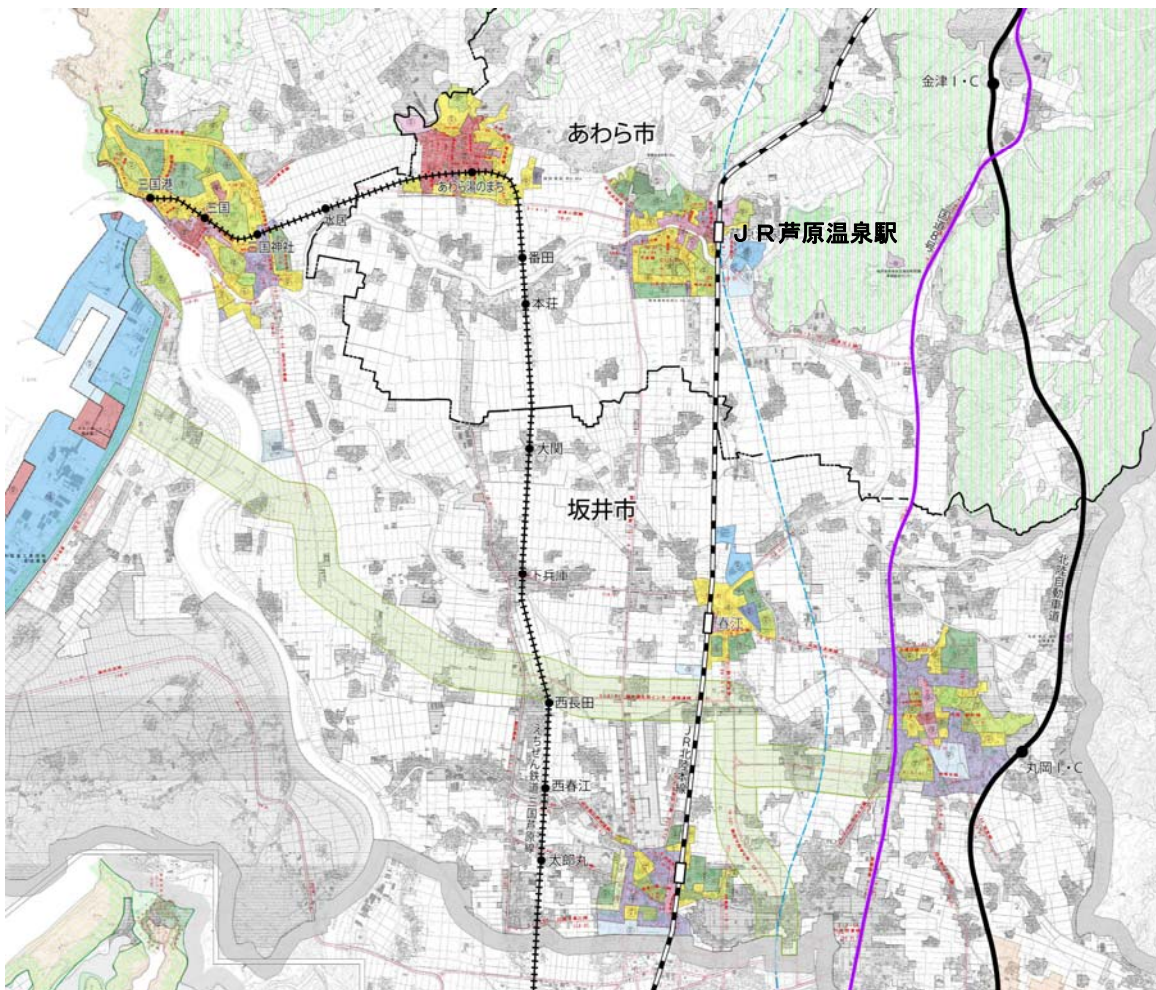
3-1 嶺北北部地域の現況特性

歴史的なつながりや駅への時間距離及び周辺の道路網条件等により、芦原温泉駅(新幹線駅)の駅勢圏をあわら市及び坂井市からなる地域(以下、嶺北北部地域と呼ぶ)と設定し、現況特性を整理する。

位置及び面積 ・面積：326.67km ²	<ul style="list-style-type: none"> ・福井県北部に位置し、北は石川県、南は県都福井市に接し、九頭竜川の流域に広がる広大な福井平野を形成しており、米どころとなっている。 ・北陸地方の主要都市を結ぶ交通動脈である国道8号や北陸自動車道、JR北陸本線が域内を縦貫し、更に平坦な地形条件から国道8号を補完する各種の主要道路が域内に配置されている。
人口・世帯数動向 ・人口：119,009人 ・世帯：39,151世帯 (H27国勢調査確報値)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年10月時点の人口は119,009人、世帯数は39,151世帯であり、平成17年と比べて人口は3.6%減少、世帯数は3.9%増加している。 ・対県シェア：人口：15.0%⇒15.1%、世帯数：14.0%⇒14.0%と横ばい ・人口は、あわら市及び坂井市で減少傾向に、世帯数は、あわら市で減少傾向にある。 ・通勤流動からみた交流人口は、嶺北北部内での交流が多く、また隣接する福井市との交流も強く、日常生活圏域を形成している。
産業特性 産業別就業人口構成比(H22) ・1次：4.9% ・2次：33.1% ・3次：61.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・産業別就業人口構成比は1次4.9%、2次33.1%、3次61.6%であり、福井県全体と比較すると1次が高く、3次が低い(平成22年)。 ・農業産出額：148億円(H18、対県シェア29.9%) ・製造品出荷額等：4,715億円(H26、対県シェア24.9%) ・年間販売額：1,350億円(H26、対県シェア07.3%)
観光資源 観光入込み客数(H27) ・芦原温泉：101万人 ・芝政ワールド：44万人 ・東尋坊：147万人	<ul style="list-style-type: none"> ・主要観光地の入込み客数は近年の動向として増加傾向にある。越前松島、北潟湖畔、金津創作の森等への入込みが減少している一方、芝政ワールド、グリーンセンター等への入込みが増加傾向にある。また、芦湯といった新たな観光地も生まれている。 ・これらの観光地への鉄道の玄関口は主にJR芦原温泉駅となっている。 ・芦原温泉を訪れる外国人旅行客は9,400人(H27)であり、前年に比べて増加している。
土地利用 ・行政区域：32,690 ・都市計画区域：24,529 ・用地地域：2,271 (ha)	<ul style="list-style-type: none"> ・地勢は北側の山林、丘陵地と南側の福井平野とに分かれている。九頭竜川流域には穀倉地帯である福井平野が広がっており、農地、住宅地として広く利用されている。 ・福井市及び永平寺町の一部とともに嶺北北部都市計画区域(非線引き)に含まれ、ほぼ全域が都市計画区域に指定され、JR線やえちぜん鉄道駅を中心にコンパクトな市街地で用途地域が指定されている。
交通 南北方向に交通軸 ・JR北陸本線 ・えちぜん鉄道 ・国道8号、305号、364号	<ul style="list-style-type: none"> ・中央部をJR北陸本線が縦貫し、芦原温泉駅は沿線住民の日常の足であるとともに、芦原温泉等の観光客が利用する主要な玄関口となっている。 ・また、三国-福井間を結ぶえちぜん鉄道三国芦原線が第3セクターにより営業されている。 ・交通動脈である北陸自動車道(金津IC、丸岡IC)及び国道8号が地域内を縦貫しており、この他に海岸沿いに国道305号、山間部に国道364号が整備され、これらを補完するように主要地方道、県道がある。



■ 嶺北北部地域の主要交通網と観光資源



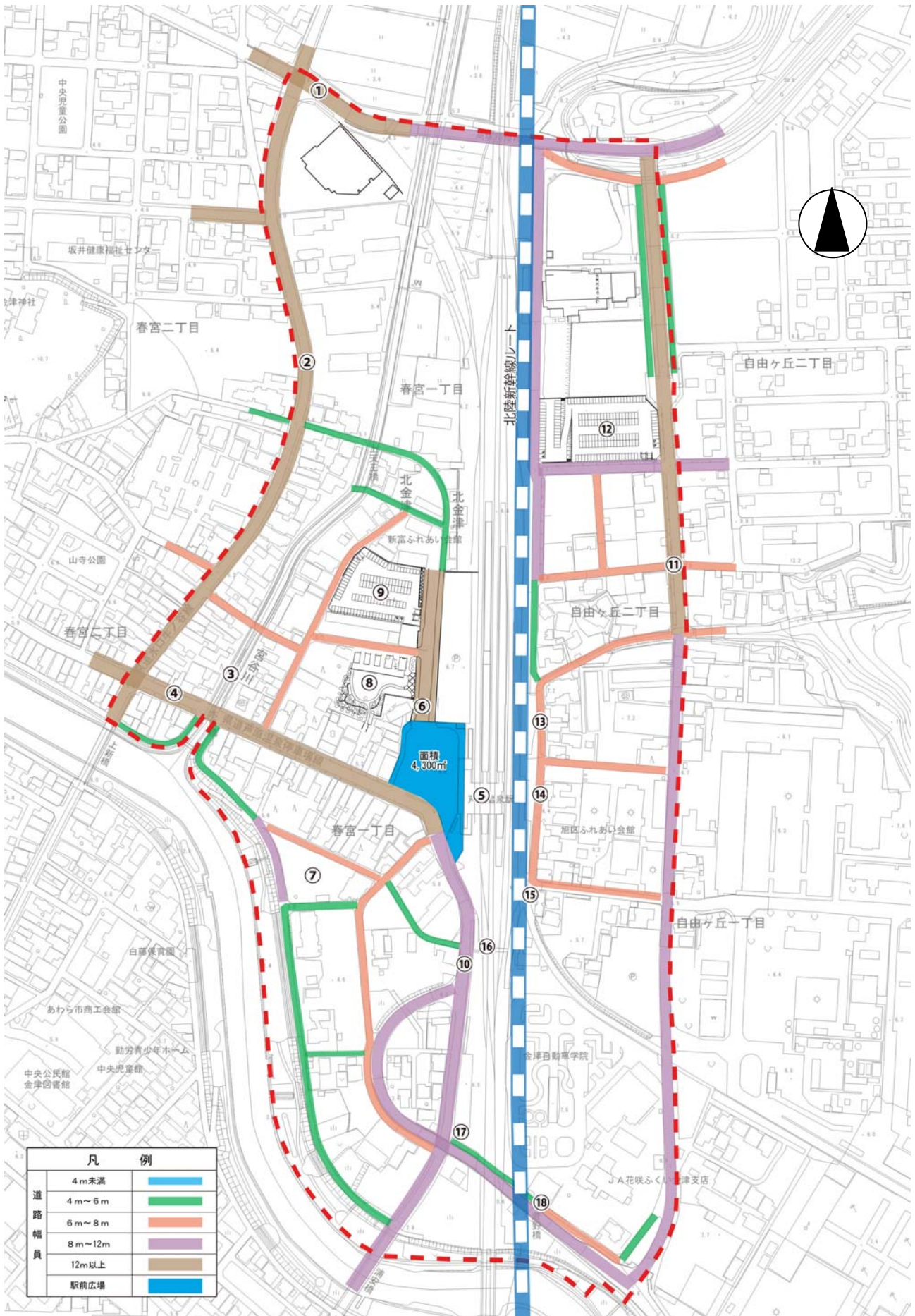
■ 都市計画図（嶺北北部都市計画区域）

3-2 駅周辺地区の現況特性

社会的条件	人口・世帯数		<ul style="list-style-type: none"> ・金津市街地の動向：停滞 ・調査地区の動向：駅西→減少傾向、駅東→増加傾向 			
	町丁界	駅西	<ul style="list-style-type: none"> ・駅西：春宮一丁目～二丁目 			
		駅東	<ul style="list-style-type: none"> ・駅東：自由ヶ丘一丁目、二丁目 			
地価の状況			<ul style="list-style-type: none"> ・芦原温泉駅周辺の地価は下落傾向 地価公示価格(H18.1.1)：あわら市春宮 1-9-41 69,800 円/m² →地価公示価格(H28.1.1)：あわら市春宮 1-9-41 40,000 円/m² 			
物的条件	土地利用	駅西	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前広場や県道芦原温泉停車場線沿線は、小売店、飲食店、宿泊施設等が立地しているが、商店の老朽化や空き店舗が増加し、中心市街地の空洞化、活力低下が生じている。 ・一部、鉄道沿線に低未利用地が残るものの、旧工場跡地には交流施設、市営駐車場、学校給食センターが建設された。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 繊維工場跡地… 「aキューブ」 H27.4.1 オープン J T跡地… 「芦原温泉駅西口駐車場」 H21.12 供用開始 セメント工場跡地… 「学校給食センター」 H26.1 調理開始 </div>			
		駅東	<ul style="list-style-type: none"> ・主に専用住宅と大規模工場用地が混在している。 ・金津東部区画整理事業区域内には専用住宅が立地されつつあり、また、市営駐車場が整備されたものの空閑地が多い。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 「芦原温泉駅東口駐車場」 H20.3 供用開始 </div>			
	都市計画	用途地域	<ul style="list-style-type: none"> ・駅西側では、駅直近部は商業地域(400/80)、県道芦原温泉停車場線沿線は近隣商業地域(200/80)に指定され、その周辺は北側が準工業地域(200/60)、南側が住居系用途地域に指定されている。 ・駅東側では、駅直近部は工業地域(200/60)に指定され、金津東部区画整理事業区域は近隣商業、第1種中高層住居専用地域に指定されている。 			
		都市施設	道路	3.4.5 金津三国線 (県道芦原温泉停車場線)	16.0m	概成済
			3.5.30 金津川上線	12.0m	整備済	県道芦原温泉停車場中川線
			3.6.29 金津細呂木線	11.0m	整備済	県道水口牛ノ谷線
			7.6.1 山室伊井線	8.0m	整備済	市道旭・山室線
		公園	2.2.31 駅前児童公園	0.22ha	整備済	
	整備履歴	<ul style="list-style-type: none"> ・大部分は震災復興土地区画整理事業(昭和 23～28 年度)及び金津東部土地区画整理事業(平成 3～19 年度)により、面的な基盤整備が行われている。 ・駅東口で鉄道跡地を活用した通路が整備されている(平成 15 年度)。 ・新幹線金沢開業による駅の利用者数増加を見込んで、J R 芦原温泉駅にエレベーター3基が設置され、平成 27 年 8 月に使用を開始した。 				
	交通	<ul style="list-style-type: none"> ・J R 芦原温泉駅は昭和 47 年に橋上駅舎が整備され、現在は上下合わせて 121 本(うち特急 65 本)の列車が停車する(平成 28 年 3 月時刻表)。 ・駅西口広場は昭和 40 年代後半に拡張され、現在バスターミナルがあり、永平寺、東尋坊、三国駅前、本丸岡等を行き先とする路線バスが 5 路線、約 55 本が発着している。乗合タクシーは不定期で発着している。 ・駅東口は橋上駅舎によって乗降口はあるものの交通広場はなく、北陸自動車道金津 IC や国道 8 号等の広域幹線道路とのアクセス条件が悪い。 ・市営駐車場が駅西口に 2 箇所(214 台)、駅東口に 1 箇所(164 台)、駐輪場が駅西口に 2 箇所、駅東口に 1 箇所設置されている。 				
	公益施設	<ul style="list-style-type: none"> ・駅周辺にはあわら市役所をはじめとして、金津中学校、金津高校、金津こども園、金津本陣 IKOSSA 等の施設があり、これらは全て駅西側に立地している。 				



■ 土地利用現況図



■ 都市基盤の整備状況と現地写真位置図

①市道滝・高塚線



②県道水口牛ノ谷線



③宮谷川



④県道芦原温泉停車場線



⑤J R 芦原温泉駅広場



⑥市道 105 号線



⑦駅前児童公園



⑧a キューブ



⑨芦原温泉西口駐車場



⑩県道芦原温泉停車場中川線



⑪市道旭・山室線



⑫芦原温泉駅東口駐車場



⑬線路沿いの道路



⑭J R 芦原温泉駅東口



⑮駅東西を結ぶ連絡通路(東側)



⑯駅東西を結ぶ連絡通路(西側)



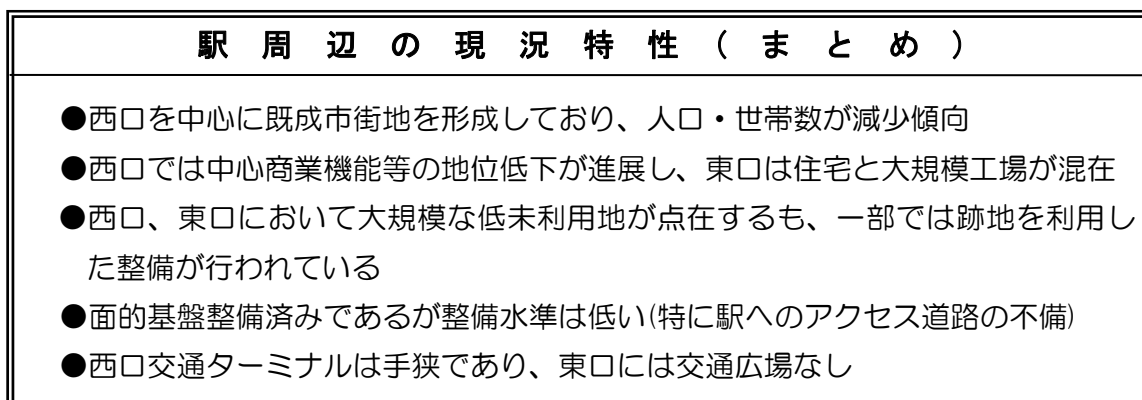
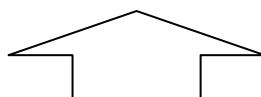
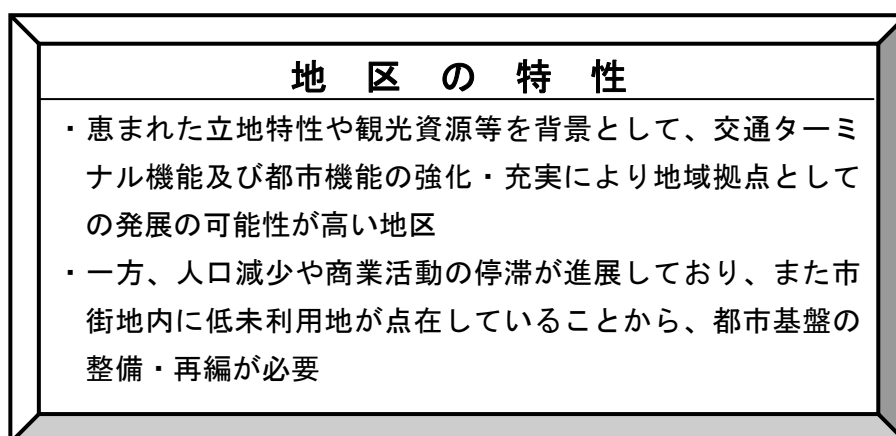
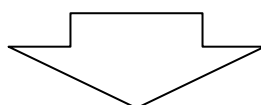
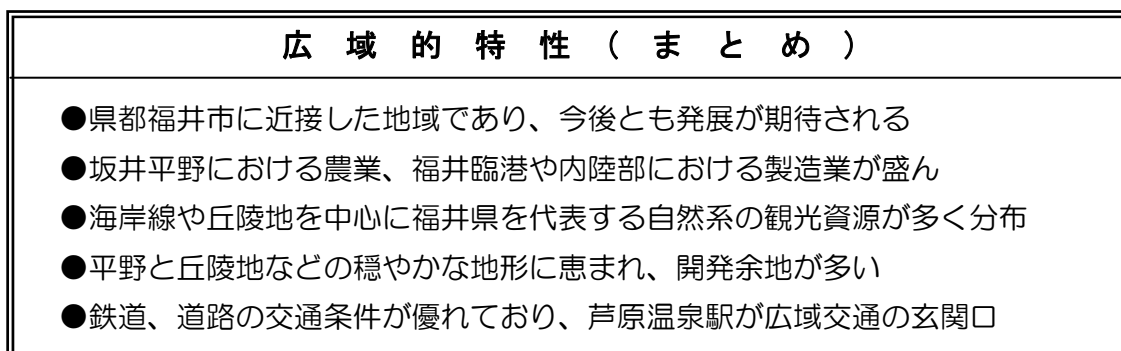
⑰駅東西を結ぶ連絡通路(西側)



⑱駅東西を結ぶ連絡道路



3-3 地区の現況特性のまとめ



第4章 地区の整備課題

1. 土地利用上の課題

(1) 広域を対象とする都市機能の導入

- ・ 駅周辺地区は、JR 駅（特急停車駅）、広域バスターミナル等、広域圏（嶺北北部地域）の交通拠点形成しており、将来的には新幹線駅の現駅併設によりその機能は更に強まることが予想される。
- ・ 圏域の交通拠点として、交流や観光の賑わい機能等、一定の都市機能は導入されたものの、情報発信、物産販売等、さらなる都市機能を導入することが課題となる。
- ・ また、新幹線開業に伴い増加が予想される外国人観光客やビジネス需要に対応した都市機能の導入も課題である。

(2) 定住機能の再編・強化

- ・ 西口広場及び県道芦原温泉停車場線沿線は金津地区の中心商業地を形成し、観光客を対象とする店舗等も立地していたが、中心部の人口減少および消費購買力の郊外流出に伴い空き店舗が増加している。
- ・ また、小売商業の地盤沈下だけでなく、市街地内居住を支援する各種機能の低下による生活環境の悪化や人口減少、高齢化の進展等に対応して、市民の身近な生活を支える定住機能の再編・強化が課題となる。

(3) 大規模空閑地等の土地利用転換

- ・ 駅周辺地区には、農地（駅西地区）や大規模造成地（駅東地区）が分布し、現在はその多くが空閑地となっており、駅周辺での土地利用としては低未利用な状況にある。
- ・ 駅周辺地区への都市機能の導入や都市基盤の整備により、賑わいのある地区整備を進めるために、これらの大規模空閑地等の土地利用転換が課題となる。

(4) 土地利用の混在の解消

- ・ 駅東口の直近部では大規模工場と専用住宅が近接して位置しており、これらの混在による生産環境と居住環境上の問題を有する。
- ・ 駅周辺地区にふさわしい土地利用と良好な市街地環境を整備するためには、土地利用の混在による問題を解消することが課題となる。

(5) 居住環境の整備

- ・ 駅西口は既成市街地を形成し、新市街地での開発・整備に伴い近年、人口・世帯数の停滞・減少、高齢化等が進展している。
- ・ また、駅東口では、良好な市街地居住の基盤整備が完了しており、宅地供給が進められているところである。
- ・ 交通利便性が高く、各種の都市機能が集積する利便性の高い市街地での居住を促進し、賑わいを再生するために、居住環境の整備が課題となる。

2. 都市基盤上の課題

(1) 駅へのアクセスの強化

- ・駅へのアクセス道路は西口では県道芦原温泉停車場線等、また東口では市道旭・山室線があるが、いずれも交通ターミナルに至る道路としては不十分であり、駅西口付近では細街路へ通過交通が流入している。
- ・このため、交通ターミナル機能の強化に合わせて、西口アクセス道路の整備推進や東口へのアクセス強化が課題となる。

(2) 交通ターミナル機能の強化

- ・嶺北北部地域の交通拠点として西口広場には広域路線バス等が発着し、交通ターミナルを形成している。
- ・新幹線駅の現駅併設に伴い圏域における交通拠点性が高まり、西口広場の拡充や東口広場の新設等、駅周辺における交通ターミナル機能の更なる強化が課題となる。

(3) 東西市街地の連絡強化による一体化

- ・駅周辺地区は鉄道によって東西に分断され、自動車交通は県道芦原温泉停車場中川線、市道滝・高塚線によって、歩行者交通はJR芦原温泉駅自由通路やその他JR線地下通路によって連絡されている。
- ・新幹線整備により更に東西市街地が分断されることが懸念され、適正な役割分担による地区の発展のためには、東西市街地の連絡強化による一体化が課題となる。

(4) 土地利用や都市機能導入に対応した基盤整備の推進

- ・駅周辺地区の大部分は、震災復興土地区画整理事業等（昭和 23～28 年度）によって一定の水準の都市基盤は整備済みである。
- ・一方、地区内には 6m未満の道路もみられ、今後の低未利用地の土地利用転換や都市機能の導入に伴い、都市基盤の再編・整備が課題となる。
- ・また、駅を中心とした回遊性を創出するため、駅周辺の土地利用や都市機能の立地に合わせた歩行者及び自転車動線の確保が課題となる。

(5) 駐車場、駐輪場の整備

- ・駐車場は新幹線開業に向けて、西口、東口ともに整備が行われている（新たに 268 台を確保）。なお、駐輪場は整備が行われていない。
- ・北陸新幹線開業に伴う交通ターミナル機能の強化や、駅周辺への都市機能の集積による新たな需要を見極めたうえで、更なる対応を検討することが課題である。

3. 市街地環境上の課題

(1) 市街地環境の整備

- ・ 駅周辺地区の大部分は土地区画整理事業によって面的整備が行われているが（昭和 23～28 年度）、社会・経済環境の変化に伴い、商業環境、居住環境の悪化が生じている。
- ・ このため、施設立地（都市機能の導入）と都市基盤の一体的な整備によって、市街地環境の総合的な整備が課題となる。

(2) バリアフリー化の推進

- ・ 歩行者空間の不足や段差の存在等によって、住む人、訪れる人が安心して生活できる市街地環境が不足している。
- ・ このため、駅を中心として子供から高齢者、また住む人、訪れる人の全てに優しいバリアフリーに配慮した市街地の環境整備が課題となる。

(3) 緑と水辺空間の整備

- ・ 駅西側に金津本陣にぎわい広場が完成し、市民や観光の憩いのスペースとなった。
- ・ 一方、竹田川や宮谷川の水辺空間、桜ヶ丘公園（駅東側）が市民等の憩いのスペースとして十分に活用されていない。
- ・ このため、これらの緑と水辺に係わる既存資源を活用して、憩いと潤いのある市街地環境の整備が課題となる。

(4) 魅力ある市街地景観の形成

- ・ 現在の駅周辺地区では西口、東口の各々において、魅力的な地域資源を背後に抱える駅周辺として十分な市街地景観が形成されていない。
- ・ このため、圏域に広がる地域資源に至る玄関口としてイメージアップを図る必要があり、西口、東口各々において、広域の玄関口にふさわしい個性的で魅力ある市街地（街並み）景観の形成が課題となる。

第5章 駅周辺整備構想

5-1 まちづくりの方向性

駅周辺地区の整備課題		
土地利用上の整備課題	都市基盤上の整備課題	市街地環境上の整備課題
<ul style="list-style-type: none"> ① 新たな都市機能の導入 ② 商業機能の再編・活性化 ③ 大規模空地等の土地利用転換 ④ 土地利用の混在の解消 ⑤ 市街地居住の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ① 駅へのアクセスの強化 ② 交通ターミナル機能の強化 ③ 東西市街地の連絡強化 ④ 土地利用等に対応した基盤整備 ⑤ 駐車場、駐輪場の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ① 市街地環境の整備 ② バリアフリー化の推進 ③ 緑と水辺空間の整備 ④ 魅力ある市街地景観の形成

まちづくりの必要性

- ・人口減少、少子高齢化などに伴い、全市的に地域経済の活力が低迷する中、北陸新幹線開業を契機として、その効果を最大限に活かした地域経済の好循環を実現するためには、あわら市及び嶺北北部地域の玄関口である芦原温泉駅周辺のまちづくりが重要である。
- ・そこで、従来から芦原温泉駅周辺が有する市民生活の中心拠点、交通ターミナル拠点としての機能を新幹線開業にあわせて更に高めるとともに、来訪者を迎え入れる玄関口として、駅近くの水辺空間などの地域資源を活かしながら人々を惹きつける魅力的な都市空間を創出することにより、その整備効果をあわら市、更には嶺北北部地域に波及させる必要がある。

まちづくりの方向性

- ・並行して進められている「地域ブランド創出事業」による地域ブランドの確立とあわせて、整備課題に対応した以下に示すまちづくりの方向性に基づき、駅周辺のまちづくりを推進する。

■ 定住環境の向上

- ・各種の都市活動や市街地居住を推進するための基礎的な条件となる都市基盤や生活支援機能を強化・改善することにより、市街地拠点としての定住環境の向上を図る。

■ 広域交通ターミナルの強化 ～ 交通基盤

- ・新幹線現駅設置を見据え、嶺北北部地域の交通ターミナル拠点として、駅西・駅東地区での適正な役割分担のもとに、新幹線、在来線、広域バス等の交通結節点機能を強化し、利便性を高める。

■ 広域拠点及び玄関口として都市機能の強化 ～ 中心市街地活性化

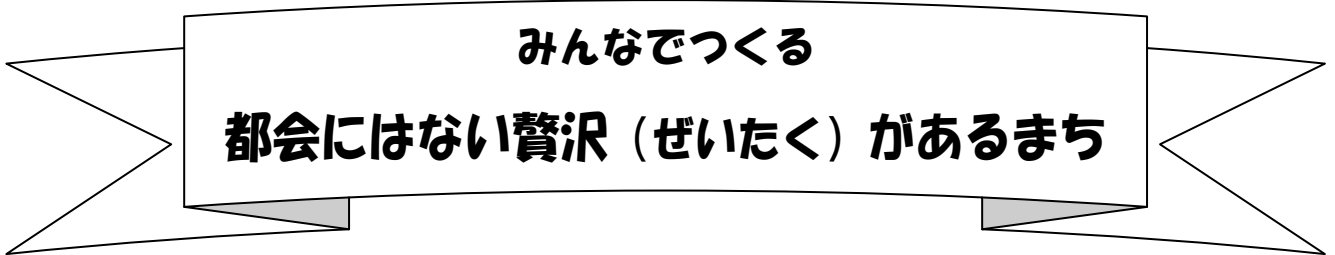
- ・あわら市及び嶺北北部地域の広域拠点及び玄関口として、広域を対象とする情報発信機能や交流機能等の都市機能の強化・導入、駅を中心とした歩行者及び自転車動線の確保などにより、拠点性を高める。

■ 魅力的で個性あふれる景観形成 ～ 都市景観

- ・駅周辺地区において、地域資源を活かした魅力的で個性あふれる景観形成を進めることにより、あわら市を含む嶺北北部地域全体のイメージアップを図り、快適性を高める。

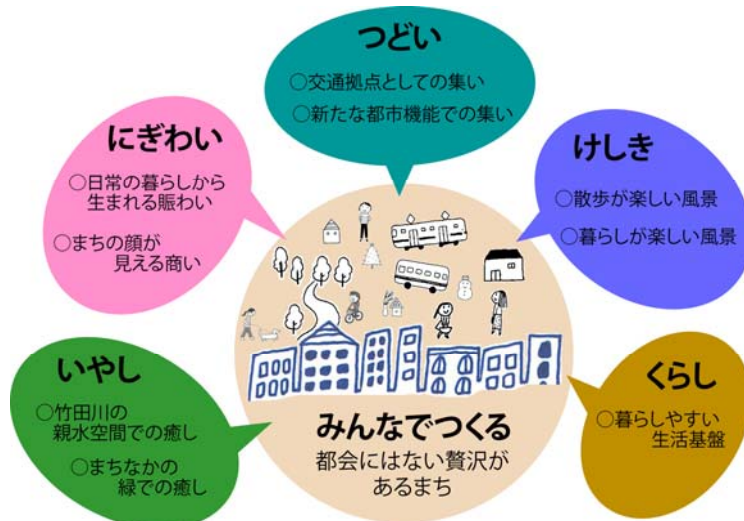
5-2 まちづくりのテーマ

- ・まちづくりの方向性を受け、まちづくりのテーマを以下のように設定する。



芦原温泉駅周辺（駅～竹田川～商店街）のまちの界隈性ととも、
『つどい』、『にぎわい』、『けしき』、『いやし』、『くらし』が駅周辺に
あり、あわらしい贅沢が感じられるまち

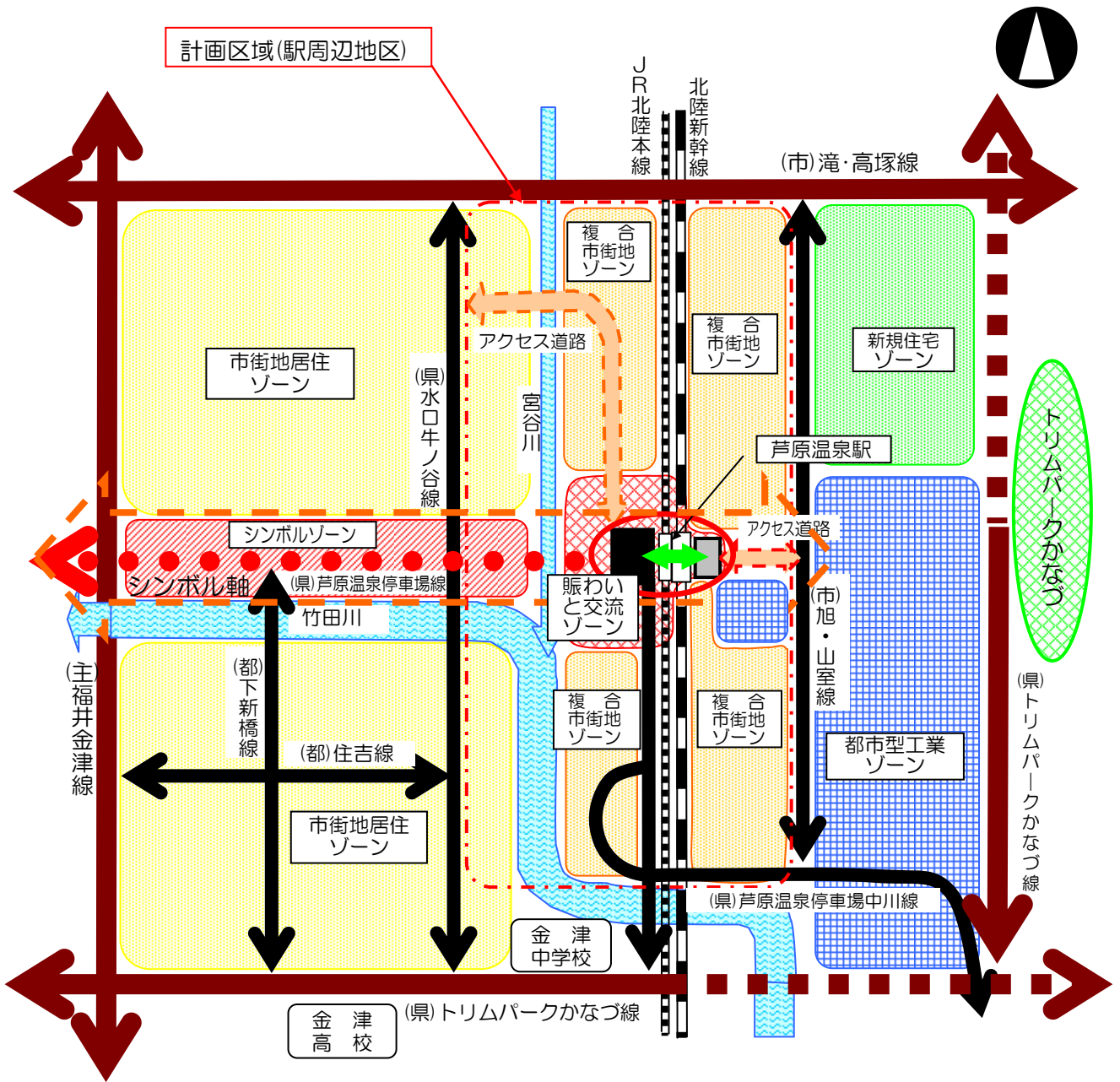
- 集** 【つどい】
広域交通ターミナルや歴史、文化や食など、あわらの誇りや宝が感じられ、その魅力を求め多くの人が集まるまち
- 賑** 【にぎわい】
商店街やにぎわい空間、自然など、まち全体がショッピングモールのような活気にあふれ、一体感でにぎわうまち
- 景** 【けしき】
水と緑と歴史がつながる風景があり、魅力につつまれたまち
- 癒** 【いやし】
暮らしの中に親水空間や緑化空間、歴史資源が身近にあるまち
- 暮** 【くらし】
暮らしやすい住宅基盤の整ったまち



■まちづくりのイメージ

5-3 地域の基本的構成

拠点と軸の設定	交流の拠点 (芦原温泉駅)	<ul style="list-style-type: none"> ・ JR芦原温泉駅は北陸新幹線現駅併設により、高速鉄道及び地域鉄道交通の駅となり、金津市街地、あわら市、嶺北北部地域、福井県の北部の玄関口として『交流の拠点』となる。
	シンボル軸	<ul style="list-style-type: none"> ・ JR芦原温泉駅を中心として金津市街地から芦原温泉に至る「県道芦原温泉停車場線」、「東西自由通路」及び「東口アクセス道路」を『シンボル軸』として位置づけ、賑わいと活力の軸線とする。
	うるおい軸	<ul style="list-style-type: none"> ・ 金津市街地を流れる竹田川と宮谷川は、中心市街地における貴重な水辺空間であり、中心市街地にうるおいと憩いを与える『うるおい軸』として位置づけ、魅力ある軸線とする。
土地利用の設定	賑わいと交流ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅直近部では既存都市機能の再編・強化、更には土地利用転換等により、拠点性の向上と交通ターミナルの機能強化を図る。 ・ あわら市民を含む圏域住民に対する各種生活サービス機能や来街者に対する情報発信機能や人々が集う交流機能を導入する。
	シンボルゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県道芦原温泉停車場線をシンボル道路とし、沿線商業の再編や観光商業機能の強化、歩行者空間の充実、魅力ある街並み景観の形成等、あわら市、更には嶺北北部地域の賑わいと活力の軸線として再生する。
	複合市街地ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市街地居住機能を基本としつつ、駅に近接した立地環境や機能集積を活かした商業、サービス、生活利便機能等の複合機能を有する市街地とする。
交通体系の設定	広域交通ターミナル	<ul style="list-style-type: none"> ・ 西口と東口の役割分担のもと、駅前広場における広域交通ターミナル機能を強化するとともに、イベント広場等のまちなか広場機能を活用し、広域に対する拠点性を高める。
	東西自由通路	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄道による市街地の分断を解消し、主要な歩行者動線となる東西自由通路を強化する。
	市街地環状道路	<ul style="list-style-type: none"> ・ 金津市街地を環状に取り囲む主要地方道福井金津線、トリムパークかなづ線及び市道滝・高塚線は市街地環状道路であり、市街地外からの交通の受け皿となるとともに、市街地内への交通を円滑に導く。
	アクセス道路	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通ターミナルと市街地環状道路等を結ぶアクセス道路を新設。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 西口：県道水口牛ノ谷線と西口(在来線口)と円滑に連絡する道路 ・ 東口：市道旭・山室線と東口(新幹線口)を結ぶ道路等



■ 地域の基本的構成

5-4 西口及び東口の役割分担と交通施設整備の方向性

■ 西口及び東口の位置づけ、役割分担

		西 口	東 口
現在の地域特性	広域	<ul style="list-style-type: none"> ・ 嶺北北部地域を代表する観光資源（芦原温泉街、東尋坊など）の多くは西口方向に分布 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北陸自動車道金津 IC や国道 8 号といった広域幹線道路が東口方向に位置
	周辺部	<ul style="list-style-type: none"> ・ あわら市の中心市街地を形成 ・ 自由通路利用者の 8 割が西口を利用 ・ a キューブ及び金津本陣賑わい広場、芦原温泉駅西口駐車場を新設 ・ アクセス道路の整備が進行中 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住宅地と工場による土地利用が主 ・ 芦原温泉駅東口駐車場を新設 ・ 西口に比べて道路整備水準が低い（アクセス機能に劣る）
		↓	↓
位置づけ		<p style="text-align: center;">『広域的な賑わい・交流拠点』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 嶺北北部地域及びあわら市の玄関口として、あわら市民のみならず、圏域住民や来訪者が集い、交流する拠点 	<p style="text-align: center;">『東口方面の利用者を対象とする結節点』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東口周辺や東口方面からの利用者に対する結節点
		↓	↓
将来の役割分担	都市機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来訪者に対する情報発信機能（観光、特産品、二次交通など） ・ 地域住民や来訪者の交流機能（a キューブ、金津本陣賑わい広場など） ・ 地域住民のための日常的なサービス機能（商店街など） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民や駅利用者のための日常的なサービス機能（コンビニなど）
	交通機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光客などの来訪者には、広域的な賑わい・交流拠点である西口に降り立ってもらえるよう、広域的なターミナル機能は西口に集約 ・ 東口では、東口方面からの日常的な利用者などに対する交通結節機能を確保し、交通機能に加えて賑わい・交流拠点としての機能導入が望まれる西口を補完 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民や駅利用者などのための日常的なサービス機能（コンビニなど）
		<p style="text-align: center;">『広域ターミナル拠点』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 路線バス、観光バス、送迎バス、タクシーの乗降、待機機能 ・ 一般車の乗降機能 など 	<p style="text-align: center;">『西口を補完する交通広場』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東口方面からの利用者に対するタクシー及び一般車の乗降機能 など

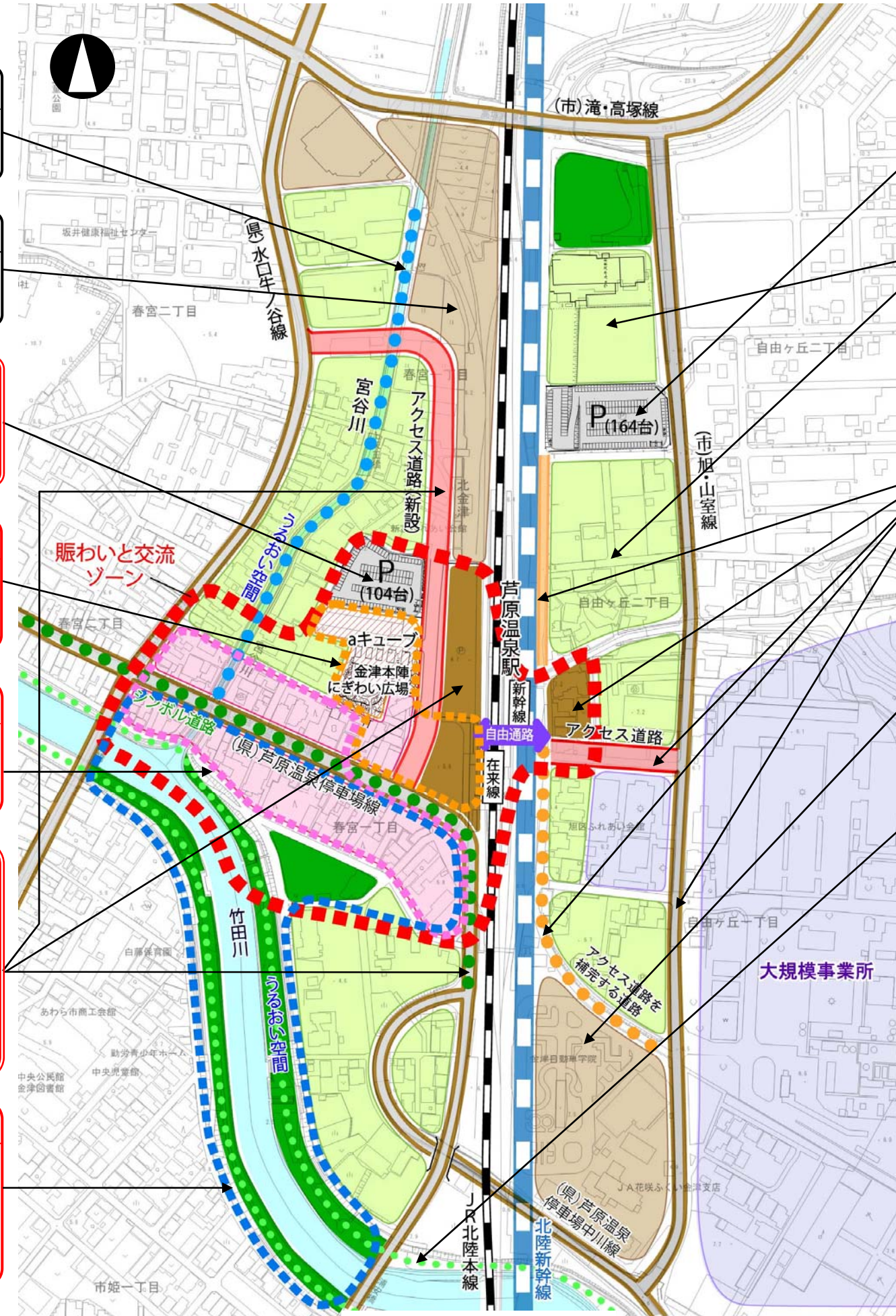
■ 交通施設整備の方向性

		路線名等	整備の方向性	
駅前 広場	西 口	西 口 広 場 (拡 充)	・ 広域交通ターミナル機能の強化 } ・ 市街地景観機能の導入 } ⇒ 空閑地を活用し た拡張整備	
	東 口	東 口 広 場 (新 設)	・ 一般車やタクシーの乗降機能の導入 } ・ 市街地景観機能の導入 } ⇒ 広場の新設	
駅への 連絡路 (アクセス 道路)	西 口	西 側	県道芦原温泉 停車場線	・ シンボル道路とし (北側アクセス道路の新設により交 通負荷が低減)、歩行者空間及び修景空間を充実 (道路 空間+民有地空間)
		南 側	県道トリムパークかなづ線 及び 芦原温泉停車場中川線	・ 駅から金津中学校及び高校への歩行者動線であり、歩 行者空間を充実 (鉄道利用者：金津高校 198 人/655 人 ※高校からヒアリング)
		北 側	ア ク セ ス 道 路 (新 設)	・ 空閑地を活用し、芦原温泉街方面から駅前広場へのア クセス性を強化
	東 口	南北	市 道 旭 ・ 山 室 線	・ 市道旭・山室線の強化 (歩道設置等)
		東西	市 道 第 171 号 線 (強 化)	・ 市道 171 号線の強化 (シンボル道路化)
	東西 市街地 の連絡	自動車	北 側	市 道 滝 ・ 高 塚 線
南 側			県道トリムパークかなづ線 及び 芦原温泉停車場中川線	・ 市街地環状道路として県道トリムパークかなづ線 〔(都)南中央線〕の整備 ・ 県道芦原温泉停車場中川線〔(都)金津川上線〕の整備
歩行者		中 央	東 西 自 由 通 路 (新 設)	・ 新幹線駅舎の整備にあわせた東西自由通路の新設
		北 側	市 道 滝 ・ 高 塚 線 歩 道	・ 既存の道路を活用
		南 側	県 道 菅 野 跨 道 橋	・ 県道菅野跨道橋を活用
駐車場 ・ 駐輪場		西 口	短 時 間 駐 車 場	・ 東口との機能分担を踏まえ、広場内に一般車の短時間 駐車を確保
	パ ー ク & ラ イ ド 駐 車 場		・ 空閑地を活用したパーク&ライド駐車場(整備済) ⇒ 嶺北北部、福井市北部等からの利用者用	
	駐 輪 場		・ 主に西口方面からの利用者を対象とした駐輪場の整備	
	東 口	短 時 間 駐 車 場	・ 西口との機能分担を踏まえ、広場内に一般車の短時間 駐車を確保	
		パ ー ク & ラ イ ド 駐 車 場	・ 低未利用地等を活用したパーク&ライド駐車場(整備済) ⇒ 坂井市、永平寺町、奥越等からの利用者用	
		駐 輪 場	・ 主に東口方面からの利用者を対象とした駐輪場の整備	

：第6章「駅周辺整備基本計画」において具体的検討を行う施設

5-5 駅周辺の基本構想

- 《宮谷川周辺の市街地》**
 - 宮谷川のうるおい空間を身近に感じられる環境良好な複合市街地（住宅、店舗等）を形成する。
- 《アクセス道路北側沿線》**
 - アクセス道路の整備に伴い、沿道を中心とした土地利用転換（商業施設、企業誘致等）を促進する。
- 《芦原温泉駅西口駐車場》（P58～59 参照）**
 - パーク＆ライドや、金津本陣にぎわい広場、金津本陣 IKOSSA などで開催されるイベント時の駐車需要に対応する。
- 《交流拠点エリア》（P62 参照）**
 - 先行的に整備された a キューブと金津本陣にぎわい広場を活かし、駅周辺の賑わいづくりと地域活性化の拠点を形成する。
- 《駅前商店街エリア》（P63 参照）**
 - 駅前商店街の空き店舗などをリノベーションするとともに、あわら市らしい街並みを誘導し、まちなかへの回遊を促進する。
- 《駅西口の交通施設》（P35～55 参照）**
 - 西口広場の拡充による広域交通ターミナル機能、まちなか広場機能、都市景観機能を強化する。
 - 県道水口牛ノ谷線に接続するアクセス道路を新設する。
 - シンボル道路を形成する県道芦原温泉停車場線と県道芦原温泉停車場中川線、また、県道トリムパークかなづ線を強化する。
- 《うるおいエリア》（P63 参照）**
 - 竹田川のうるおい空間（河川敷）を身近に感じられる環境良好な複合市街地（住宅、作業所等）を形成する。
 - また、うるおい空間へ至る歩行者動線を確保する。
 - さらに、安心して暮らせるよう冠水対策を講じる。



■ 駅周辺地区の基本構想図

○ : 土地利用 ○ : 交通施設

※赤枠は『賑わいと交流ゾーン』に関するもの

- 《芦原温泉駅東口駐車場》（P58～59 参照）**
 - パーク＆ライドなどの駐車需要に対応する。
- 《駅東市街地》**
 - ケア付マンション等、新幹線駅に近接した立地を活かし、付加価値の高い住宅地等の形成を図る。
- 《駅東口の交通施設》（P37～55 参照）**
 - 東口広場の新設により東口方面利用者の交通結節機能を強化する。
 - 市道旭・山室線に接続するアクセス道路を強化する。
 - アクセス道路を補完する道路として、廃線敷を活用した市道整備を検討する。
 - 市道 1117 号線他の整備により東口駐車場からのアクセスを強化する（歩道設置）。
 - 市道旭・山室線を強化する（歩道設置等）。
- 《自動車学校周辺》**
 - 新幹線用地の支障を契機として、土地利用転換（商業施設、企業誘致等）を図る。
- 《竹田川》**
 - 冠水対策として護岸整備を行うなど、適切な維持管理に向けた取り組みを進める。

凡 例

■	駅前広場	○	交流拠点エリア
●●●	シンボル道路	○	駅前商店街エリア
■	アクセス道路	○	うるおいエリア
■	アクセス道路を補完する道路		
■	その他道路		
■	駐車場		
■	賑わい・活性化拠点		
■	商店街		
■	住宅地		
■	工業地		
■	公園		
■	その他の土地利用		